

平成27年度第1回（心理学・教育学）分野連携グループ合同委員会議事概要
学系別FD/ICT活用研究委員会（心理学）
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会（教育学グループ）

I. 日時：平成27年10月24日（土）13：30～15：30

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局

III. 出席者：心理学

木村員長、横山委員、児島委員、片受委員

教育学

三尾委員

事務局 井端事務局長、森下

III. 議事概要

1. 出席委員の紹介

委員会開催にあたり、心理・教育学分野の出席委員の自己紹介が行われた。

2. 報告・検討の概要

(1) 平成27年度の事業計画の説明の後に平成26年度の事業報告書から昨年度の分野別のアクティブ・ラーニング対話集会の活動内容が報告された。

(2) 平成27年度の活動計画

資料①により、分野連携による対話集会の目的及び開催方針の説明が説明され、対話集会の進め方について意見交換された。

3. 意見交換の概要

(1) 対話集会の目的、計画、進め方などについて

学生の主体性を引き出し、伸ばす授業が求められることから自ら問題を発見し、答えを見出し実践できる力を育むアクティブ・ラーニングについて、昨年度は分野ごとにアクティブ・ラーニングのイメージについて共有した。今年度は「対話を通じて課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法とそれを実現していくための授業運営の工夫」、「組織的に推進していくため教学マネジメントの工夫」について対話集会を通じて考察を行う。

- ・ 対話集会は、分野連携の9のグループ編成で行うこととしている。
- ・ 経済・経営・数学グループを1つのグループとして分野連携で対話集会を開催する。
- ・ 分野共通のテーマでアクティブ・ラーニングを考えるのではなく、各分野の先生の見解、分野ごとの視点でテーマを検討するのがねらいである。

(2) 話題提供や意見交換のテーマなどについて委員の意見

- ・ 心理学では、昨年は、心理学の特色である実験実習でテーマ決めを学生が主体的にチーム学修する事例とファシリテータを活用して英語の文献を読むアクティブ・ラーニングの事例を報告し、実験実習にそれぞれの現場でいろいろ関わっておられる内容が話し合われた、また、ファシリテータについては、必要であるが人材育成が難しいことが話し合われた。
- ・ 具体的にお互いの分野で合同して出来るものがどれかという議論をしたほうが良いと思うが、もう建設的な感じもするのですけれども。これだったらフロア、今事務局長いただいたような、新しいスタイルの対話集会の形に、最終的にちゃんと、その対話集会としての何らかのアウトプットを出せるような仕組みを作っておいて、ということ希望を出されておりましたので、それが出来るものというのと、あと出来れば

人が集まるですね、何かあるかなと思って、そのへんで、具体的に話題提供できるような人を想定しながら、どれかなということをしたほうが、もう年内に開催という、強い事務局側のご希望もありますので。初年次で、アクティブ・ラーニングをやっている先生をご存知だとか、ご存知でないという話でいいと思いますし。

- 分野連携に共通する学習効果では、教育養成が到達目標の一つですが、良い教員になるためにどうということをするかが課題なのではないでしょうか。
- 教育学では、教職課程を持っていない大学もあることから、教員養成の教育ではなく、教育を学ぶことへの責任、教育を学んだものとしての社会で活躍できるような学士力を持った学生が育てることの念頭に置いて考えている。もう一つは生涯に亘って学び続けるあとは生涯学習に取り組む姿勢を考えていかないといけない。
- 心理と教養教育、共通し合うようなところと、相手が人間だというのは共通している。人間を扱うという意味の責任が発生する。
- 実際に自分でやってみないと分からない。心理学は実験、教育でも自分が教えてみないと、実感できない。ICTを使った教育学のモデル・カリキュラムを作る時に、そのことを考え、PDCAで評価していく必要がある。心理学も一緒だと思うが相手が人間だということはたぶん間違いない。
- 例えば、トピックでやるというのはありますか、トピックね、集約するような議論とかフロアとの会話ができるかということだと思うのですよね。
- 順番で行きますと、相手が人間という事とか、それから方法論とか、ある種の客観性とか、自主性とか、そういうものがあるかと思えますけれども。初年次教育というのは、学び方を学ぶわけですからこの点はどうか。
- 心理と教育では質が違うと思うが、教育をしたくて入ってくる学生は少ない。大学によって異なると思うが。この点を題材に議論していくのも面白いかなと思う。主体的に学ぶ目的を持たずに入学してくる学生をどう教育するかは大きな課題課題である。
- 心理学においてもほぼ同様であり、学びの動機付けは初年次が本当に大事で、1学期にはそういった授業を反復させるが難しい。
- 知識、技能、態度の確認、定着を目指したアクティブ・ラーニングは事前・事後学修、eラーニング、反転授業は面白いと思う。
- 2年生の心理学演習ⅡAで卒業生にインタビューをさせる授業があり、学生に卒業生を1人ずつ8グループに分けて、一人ずつ割り振って、どういう仕事をしている人というのを、こちらが紹介して、それについて、学生たちに調べさせて、実際にその中で聞きたいことについて、卒業生にインタビューをする学修を行っている。ここで、文献をどうやって調べるか、インタビューのマナー、倫理的な問題なども学修させる。今までは発表させて終りだったが、発表に卒業生からコメントをもらったり、双方向になったらもっと面白だろうと思う。
- 学生に社会を理解させ社会性を持たせる汎用的能力を持たせる訓練にもなる。手紙の書き方、メールの書き方、お礼状の書き方とか。
- 社会人基礎力、キャリア教育的な部分も含めて、卒業性が実際に自分の学びを振り返ってみると、こんなことが繋がっているのだぞとか、こんなことを勉強しておいてよかったとかが確認でき、心理学と社会との結びつきとか、心理学を4年間学んで役に立ったと、以外と役に立たなかった等の意見を聞いて学びに反映できる。
- 教員が一方的に語るのではなくて、卒業生の生の声を聴くのは効果があると思う。
- 学生達は生き生きといろいろ調べて取り組んでいる。

- ・ 社会との繋がりということで、アクティブ・ラーニングではまさにそういうことですから知識・技能・態度の活用を目指したアクティブ・ラーニング、産業界、地域社会との双方向型ですね。
- ・ 知識の創造を目指したアクティブ・ラーニング、総合科目とか、そういうのよくありますけれども、最近どうなのでしょう。
- ・ 専門科目は自分の専門、教養や自由科目は大学の教養と考えられ、連携が無ため学生が自分で知識を組み合わせ、自分でヒントを得て意味あるものに構築する力が身につかない。自分の課題に合わせた軸の創造を目指すような仕組みができていない。
- ・ 知識の定着・確認、知識の活用・創造に効果的なアクティブ・ラーニングの在り方と組織的に行うための教学マネジメントが大きなテーマで対話集会ということになっている。
- ・ いろいろな話題提供や議論のテーマがあると思うが、われわれの専門性を活かすとすると、心理学の立場からはアクティブ・ラーニングの評価方法とか、基準設定はこういうふうに考えますよ、こんな実践がありますよ。教育学の立場からはこんな実践がありますよ、こんな定義していますよという感じですか。
- ・ 意見交換としては、教員個人の努力では当然限界があり、大学、学生の事情もある中で教学マネジメントとして、どのような支援が望ましいかということ提案し、意見をまとめていくのも一つの流れかと思う。
- ・ 成功事例ではなく、もう少し広がりを持つような話題提供、意見交換、本当の教育現場の話、もう少し広げて学生に共通して何かを身に付けてもらいたいという部分が、何か具体的に共通の議論できるような場にしたい。
- ・ 話題提供では、オムニバスで何名かの先生が、リレーで議論したり、話題提供15分ずつ4本とか、関連してやってもらうことも考えられる。
- ・ 反転授業なんかでも学生に予習させることの難しさというのがすごくある、事前学修は単位の実質化に再重要であり、そのための仕組み、教え方の技術、単にICT活用でなく授業と連携した授業外学修を考えたい。
- ・ 問題発見と解決策を目指す教育ということはディベートを指導するという授業もあるが、学生価値観がそこに出ないようにしないといけないことやテクニックに走ってしまうこと等でなかなか難しい。
- ・ グループ学修、グループディスカッションは、グループごとに参加しない、内向きな学生、独自の力学が働くなど本当に難しい。
- ・ ファシリテーションは本当に難しく、PBLを大学院で医学部、薬学部、看護と臨床心理とで多職種連携でやっているがファシリテイトが難しい。
- ・ いいファシリテータを養成するというのは、ものすごく貢献になると思うし、それを学びたいと思う。
- ・ 教学マネジメントにファシリテータ活用の方法・体制の養成というのがあるがこのことを検討することも考えられる。
- ・ グループでのディスカッションをいろいろな形で、授業の中でやっているが、どう上手くファシリテイトするかというのが課題。
- ・ eスクールでは教育コーチを学生2、30人に1人TA（非常勤雇用の修士）をつけ毎週の学修をサポートし、レポートのコメント、等を行っている。
- ・ 今後はファシリテータ導入が必須となると思う。「協働学修を進めるためには、事前準備や授業時間の確保、内向きの学生に対する支援、優れた学生への学修指導など個別的な対応が必要となることからファシリテータの導入が必須となる、」どちらもファシリテータが重要であるということは昨年の対話集会でも議論された。

- ・ 意見を集約すると、「ファシリテータ」の話と、「評価方法」、卒業生インタビュー等を通じた「汎用的能力を持たせる学修」等が考えられる。
- ・ 汎用的専門的能力の獲得に向けた授業運営の工夫はどの教科でもできる。工学系でも卒業生が、メーカーの技術部にどうしているかと聞いても面白いでしょうし。企業倫理も含めて。会計士の倫教育などにも応用できる。
- ・ 2年生で専門に入る段階の汎用的、専門的能力の獲得に向けて、社会を先輩といろいろ調べてインタビューする、社会の先輩からもフィードバックをもらう学修を課題も含めて双方向型で提案したらどうか。
- ・ 心理学と教育学の独自のテーマでやるということではなく、テーマ優先型で行く。テーマでいろいろ考えてもらうことがねらい。
- ・ 話題提供は、テーマをリードしていくようなものにしたい。話題提供者もある程度このあたりで見当を付けておかないといけないが、今日はとりあえず何をテーマにしようかということをやらないと本末転倒になってしまう。
- ・ 見える範囲では、心理学の先生、教育学の先生以上のところでなかなか見えてこない。例えば卒業生インタビューの事例、ファシリテータ活用、ディスカッションの中で学修をサポートするよなというのができれば安心感がある。
- ・ 意見交換のテーマは取りあえず、アクティブのところを2つ、教学で2つくらいをイメージしてみてもどうか。
- ・ ファシリテータということはあったし、また汎用的能力と社会専門的能力を通じてというのは、いろいろ主張した手前それを軸に人を探してもいいのではという感じもする、複数でやっても良い。
- ・ シンポジウムみたいにしたっていいわけですよ。別に3人でちょっとやってみるとか、4人でやってみるとか、それでもいいわけですよ。話題提供。何か一人1本ずつしゃべるといってなくていいわけ。
- ・ 成功例と失敗例があって、フロアの質疑を代弁して、議論してもらうのも一方法。
- ・ テーマは、具体的にはファシリテータ、社会との連携による汎用的能力、知識・技能・態度の活用を目指した産業界と双方向学修、地域社会というのはなかなか難しいかもしれないが表現を変えれば良い。地域社会に入っている卒業生など。
- ・ この3つくらいと評価方法くらいを候補にする。

(3) 以上のような意見を踏まえて以下の意見交換のテーマを案とすることにした。

【アクティブ・ラーニングに関するテーマ】

- ・ 知識・技能・態度の活用を目指したアクティブ・ラーニング
(産業界・地域社会との双方向型授業)
- ・ アクティブ・ラーニングの評価方法・基準設定

【教学マネジメントに関するテーマ】

- ・ 汎用的能力と専門的能力の獲得に向けた授業運営の工夫
- ・ ネット上でのファシリテータ活用の方法・体制と養成

V. 今後の予定

次回は11月30日(月)19:00から合同委員会を行い、対話集会の開催要項を検討することにした。また、できれば、対話集会のテーマ、取り組みの事例、意見発表してもらえるような話題について事例を自薦他薦問わず持ち寄っていただき開催要項をとりまとめることにした。